


西区の民俗・文化—川と橋—

近世以降の大阪は「水の都」とよばれ、特に西区の地域には堀川が縦横に巡っていました。川を使って物を運び、大阪は「天下の台所」と呼ばれ発展してきました。そこには「浪華八百八橋」とよばれるほど多くの橋が架けられ、市民の生活を支えてきました。しかし戦後、都市が整備される中で、堀川は埋め立てられ、橋もまた姿を消していきます。


『埋もれた西区の川と橋』伊勢戸佐一郎著 大阪中部ライオンズクラブ 1990 *

『大阪堀江今昔 -堀江三十三橋◇橋づくし-』水知悠之介著 燃焼社 2003 *

『西区の埋もれた堀・川と昔あった橋』西区役所区民企画室 2002 * 

『大阪の橋』松村博著 松籟社 1987 *


『大阪の川 -都市河川の変遷-』『大阪の川』編集委員会 編著 大阪市土木技術協会 199 5*

『今・むかし・未来 -川と西区-』西区役所 2007 * 

『「西区」歴史とふれあう学習会講演録』竹田政広[講演] [出版社不明] [2003] * 

WEB「デジタルアーカイブ」→「キーワード検索」→日下コレクション

この調べかたガイドでは、西区をテーマに4つのトピックを選び出し、それについて調べるのに役立つ情報源を、わかりやすく紹介しています。

中央図書館に所蔵しているものは、IDの前に*をつけて表示しています。（*の無いものも所蔵館から取り寄せできます。）小学生から読めるものは書誌事項の後に  オムリンマークをつけています。

WEB 大阪市立図書館のホームページ

紹介した資料やホームページなどはほんの一例です。図書館ホームページ「おおさか資料室」や各館のページにも「よくある質問」や区に関する資料のリストを掲載しています。より詳しくお知りになりたいときは、図書館のカウンターへご相談ください。図書館司書がお手伝いします。

調べかたガイド:各区版 西区の調べかた

西区の史跡・名勝・建築

—雑喉場魚市場跡—

—西区の人物—木村兼葭堂—

—西区を知る—川口居留地—

—西区の民俗・文化—川と橋—

西区の花



大阪市立中央図書館

〒550-0014 大阪市西区北堀江4-3-2

TEL 06-6539-3300

<https://www.oml.city.osaka.lg.jp>

開館時間 月～金曜日（第1・3木曜日は休館）

9:15～20:30

土・日曜日、祝・休日

9:15～17:00

休館日 ●第1・3木曜日（祝・休日は開館）


●年末年始 ●蔵書点検期間

西区の調べかた

Ver.5 2026.3改訂

西区の史跡・名勝・建築—雑喉場魚市場跡—

雑喉場(ざごぼ)とは、もともと魚市場全般をさし、魚の棚(うおのたな)、魚河岸(うおがし)などとも呼ばれます。元は鷺島と呼ばれていた土地でしたが、江戸時代、ここでざこ(小魚)類の販売が行われるようになり、魚が多く集まり雑喉場の名がおきました。現在の西区京町堀三丁目、京町通りの西にあたります。昭和6年に中央卸売市場に吸収合併されるまで、天満の青物市場、堂島の米市場と並ぶ大阪の三大市場として栄えました。

- 『大阪史蹟辞典』三善貞司編 清文堂出版 1986 *
- 『西区の史跡』西区コミュニティ協会編集 大阪中部ライオンズクラブ編集 西区制百周年記念事業実行委員会 1979 *
- 『大阪市西区わがまち今昔じまん』西区「わがまち百科」作成委員会編集 大阪市西区役所 1995 * 
- 『雑喉場魚市場史 -大阪の生魚流通-』酒井亮介著 成山堂書店 2008 *




「雑喉場魚市」(『摂津名所図会 4下 大坂部』より)

[WEB](#)「デジタルアーカイブ」→「簡易検索」→ 摂津名所図会 より

西区の人物・伝説—木村蒔葎堂—

江戸時代の町人学者で、1736(元文元)年、堀江の酒造家に生まれました。通称坪井屋吉右衛門。邸内に井戸を掘った際、葎(あし)の根が出てきたので、自宅を蒔葎堂(けんかどう)と名づけ、彼自身もそう呼ばれました。物産本草学に精通し、絵画や文学、オランダ語、ラテン語などを学び、多様なコレクションを公開したため、全国から多くの学者が訪ねてきました。大阪市立中央図書館の傍らに、「木村蒔葎堂邸跡」碑が建てられています。

- 『大阪人物辞典』三善貞司編 清文堂出版 2000 *
- 『木村蒔葎堂 なにわのレオナルド・ダ・ヴィンチ!?江戸時代の堀江が生んだ偉大なる文人、木村蒔葎堂の一生』堀江ジャンクション/ARTGRAM 2005 * 

- 『木村蒔葎堂 なにわの巨人 特別展没後200年記念』大阪歴史博物館編 思文閣出版 2003 *
- 『木村蒔葎堂のサロン』中村真一郎著 新潮社 2000 *
- 『木村蒔葎堂研究 水の中央に在り』水田紀久著 岩波書店 2002 *

西区を知る—川口居留地—




「川口居留地『大阪と博覧会』(明治三十五年刊)より」(『明治大正昭和の大阪写真集 6』より)

[WEB](#)「デジタルアーカイブ」→「簡易検索」→ 川口居留地 「大阪と博覧会」より

大阪開港とともに、1868(慶応4)年、川口町一帯に、外国人居留地が造成されました。貿易商人等が入居し、衣料品を中心とした貿易が行われました。その後、次第に港の機能が低下し、商人が離れた後は、キリスト教関係者が多く移り住むようになり、学校、病院、特に女学校が多く創立されました。当時の居留地内は、道路が舗装され、石油ランプの街灯がとるなど、大阪の近代化、文明開化の拠点となりました。

- 『大阪川口居留地の研究』堀田暁生・西口忠共編 思文閣出版 1995 *

- 『懐かしい西区と川口居留地写真展』なにわの海の時空館 2007 * 

『川口居留地』川口居留地研究会

- 1号 1988.5 *
- 2号 1989.12 *
- 3号 1994.7 *